

実習期間中における養護実習生のリーダーシップに関する研究 (1)

松本敬子・古賀由紀子・岩坂いずみ・佐方仁美・吉田道雄

A Study of Leadership of Student Teachers' of School Health during Practice Teaching (1)

Keiko MATSUMOTO, Yukiko KOGA Izumi IWASAKA, Hitomi SAKATA and Michio YOSHIDA

(Received September 4, 1995)

問 題

養護教諭は健康問題を取り扱う校内における唯一の専門職であり, 学校保健活動の展開にあたって中心的役割を果たさなければならない。その保健活動は広範囲にわたっており, いわゆる専門領域である保健管理, 保健教育等の知識・技術だけでは, 期待される役割を十分に果たすことはできない。

松本(1991)は, 社会や健康問題の複雑化に対応して, 問題の発見・改善・予防にあたる際の養護教諭と子供たちをとりまく多くの人々との「連携」の重要性を指摘した。その中には「対人関係」「関係集団への働きかけ」「組織化」など, 現代の学校内外の状況や子供の健康問題の変化に対応した活動には欠くことのできない重要な職務機能が含まれている。こうした機能を充実するために松本(1991)は「学校機構や運営の概要を知り, 学校保健活動を学校教育計画に位置付ける能力を養う」といった目標を掲げ, さらに次のような3つの下位目標を設定している。

- 「1. 組織集団の特性を理解し, 運営体制としての教職員集団と連携する方法を知っている」
- 「2. 学校組織および学校保健に関連する組織を知り, その特性と相互の関連を理解している」
- 「3. 健康問題に応じて組織・集団への働きかけや活性化の方法を知り, それらを適用することができる」

これらのうちとくに「3. 健康問題に応じて組織・集団への働きかけや活性化の方法を知り, それらを適用することができる」においては「学校内外の組織と保健組織の機能および構成メンバーの特性や役割に応じて働きかける」「仲間づくりから小集団の活性化をすすめ, 大集団へと組織化を推進する」「人々の自我関与をはかる」ことが強調された。これらは, いずれも養護教諭が実際に, あるいは無意識にとっている行動を分析した結果, 明らかにされたものである。

このように人や集団, さらに組織と積極的にかかわり, 学校内外でリーダーシップを発揮することは養護教諭に求められる重要な役割なのである。それは, 従来の専門的知識・技術を生かすことであり, 広く学校保健活動を推進することにつながる。しかしながらこうした働きかけが成功するためには保健活動に関する専門的知識であるテクニカル・スキルをもっているだけでは十分ではない。対人関係を良好にするための技術・知識であるヒューマン・スキルが求められるのであり, それなくしては養護教諭の役割を果たすことはできないのである。

松本ら(1987)は養護教諭の教師および教師集団に対するリーダーシップ行動を検討し, その結果に基づいて「連携」のもつ重要性を明らかにした。しかし, 最も重要な養護教諭の児童・生徒

に対するリーダーシップ行動に関しては、いまだに十分な検討が行われていない。

これに関連して、松本（1993）らは、養護実習生を対象に、児童・生徒に対するリーダーシップ行動について分析を試みている。しかしながら、この研究で採用されたリーダーシップ行動項目は、松本らが職務内容などを基本にして作成したものであり、現実の養護教諭の行動を十分に反映したものではなかった。

こうしたことから、本研究では養護教諭のより現実的な行動を明らかにするため、さらに多くのデータ収集と詳細な分析を行うことにした。

方 法

第1次調査（養護教諭の行動項目収集のための調査）

調査対象

平成5年度熊本大学養護教諭特別科学生40名

調査方法

養護教諭が児童・生徒および教師に対してとっている行動を明らかにするために、実習を体験する前後の学生に対して「養護教諭の職務とは」と「養護教諭として期待される役割・行動・態度」について自由記述による調査を実施した。さらにこうした調査によって得られた項目をもとにグループワークを行い、新たな養護教諭の行動を追加した。その結果、収集された行動項目は、1200個にのぼった。

第2次調査（項目整理のための調査）

調査対象

平成6年度熊本大学養護教諭特別科学生40名

調査方法および内容

収集された1200項目の養護教諭の役割・行動のうち、内容が重複する項目を除外するなどの手続きを踏んだ結果、875項目を最終的な調査項目とした。すべての項目について「3. とても重要だ、これがなければ困る」「2. 絶対というわけではないが、できるだけそうあってほしい」「1. 重要だと思うが、強く必要とするほどではない」の中から選択するよう依頼した。

結果と考察

第1次調査の結果、1200個の役割・行動・態度が収集されたが、内容が重複する項目を除外するなどして、最終的に875項目の調査票を作成としたことは前述した。これをさらに養護教諭の「対教師行動」「対児童・生徒行動」「教師、児童・生徒双方にかかわる行動」の3つに区分した。また900項目にもおよぶ項目を調査の対象にすることは回答者にも多大の負担を強いることになる。そこで、さらに「あまりに当然と考えられる役割・行動」たとえば「健康診断の実施」「保健管理をする」などの項目を除くこととした。

その結果「対教師行動」123項目、「対児童・生徒行動」299項目、「教師、児童・生徒双方にかかわる行動」250項目の合計672項目まで集約された。得られた結果を平均値の高い順に並べ換え

たものが、Table 1(対教師行動)、Table 2(対児童・生徒行動)、Table 3(教師、児童・生徒双方にかかわる行動)である。3段階の尺度を用いたが「とても重要、これがなければ困る」を3としたため、得点の高い項目ほど実習後の学生が重要視したものである。

1. 養護教諭の対教師行動

養護教諭の対教師行動教師に関する結果を Table 1 に示す。123 項目の平均値は 2.57 である。

このカテゴリーの上位 30 項目中で最も重要度が高かったのが、指導教官の言動や、4 週間の実務の経験でとらえた「1. うまく他教師の意見を得る (2.87)」であった。児童・生徒へのリーダーシップ行動に比べて、対教師行動は実習を経験して学生の注目度が高くなる。

上位 5 位までに「2. 職務に自分の意見をもつ(2.85)」「3. 校長、教頭との連絡を密にする(2.85)」「4. 仕事を誠実にやる(2.85)」「5. 他の教諭も保健指導ができるよう資料を提供する(2.85)」があり「1. うまく他教師の意見を得る」「3. 校長、教頭との連絡を密にする」「5. 他の教諭も保健指導ができるよう資料を提供する」の項目は、積極的なアプローチ姿勢が重要視されている。この他に「6. 職務を理解してもらえ保健室経営をする(2.82)」「7. 児童生徒の状態を担任に連絡する(2.82)」「8. 担任から情報収集を行う(2.82)」「9. 性教育について相談にのったり資料を提供する(2.82)」「11. 自分の考えをもち行動する(2.82)」など、どちらかといえばテクニカル・スキルにかかわる行動が上位を占めている。

12 位からは、ヒューマン・スキルの要素を含む項目が多く「12. 他の先生から信頼される(2.82)」「13. 教員間の和を大切に(2.82)」「14. 孤立しないように(2.80)」「15. 人からの意見を聞き、自分の視野を広げる(2.80)」「16. 職員との人間関係を良くする(2.80)」「17. 他職員の職務を理解する(2.80)」「18. 職員と情報交換する(2.80)」「19. 失敗してもよくよしない(2.80)」「20. 人の意見を生かすことができる(2.80)」などがある。20 位以下にも、ヒューマン・スキルの要素をもつ項目が目立っている。「21. 職員も気楽に相談できる(2.77)」「22. 自分から挨拶する(2.77)」「24. 穏やかである(2.77)」「25. すべての職員と協力関係をつくる(2.77)」「28. 悩みをもつ職員にあたたかく接する(2.75)」「29. 他職員に何かを依頼する時は丁寧に頼む(2.72)」「30. 同僚のことを悪く言わない(2.72)」などである。

下位の項目についても見てみよう。「123. 時間が空いている先生が保健室に来室するとお茶をいれる (1.60)」「122. 朝から女教師と一緒に全職員にお茶をいれる(1.60)」「121. 事務室でお茶を飲む(1.65)」「120. お茶セットを準備している(1.65)」など、「お茶」に関する項目が、下位に並んでいる。一般には「和」の役を果たす要素と考えられるが、養護教諭の本質的活動からは重要視されていないのは当然の結果だと思われる。「119. 職員会計係をする(1.82)」も同様なことがいえる。また「117. 養護教諭の力で学校全体を動かす(1.95)」は、児童・生徒の健康問題の改善などを教職員全体を巻きこみ実践化する養護教諭の重要なリーダーシップ行動と考えるが、注目度は低い。実習期間の 10 月には、養護教諭が企画し学校全体が動く健康診断などの保健行事が比較的少なく、この項目の養護教諭の役割、行動を強く意識する機会がなかったかと思われる。

2. 養護教諭の対児童・生徒行動

養護教諭の対児童・生徒行動に関する結果を Table 2 に示す。養護教諭の実習生にとって日頃の学習が実践につながる行動であり、299 項目の平均値は 2.69 である。

このカテゴリーの中でテクニカル・スキルといえるのは、30 項目中「12. 適切な処置が迅速にできる(2.87)」「14. 教師として自覚をもって児童生徒に接する(2.87)」「15. 授業で教えるだけで

Table 1 養護教諭の対教師行動の重要度

n=123

養護教諭の行動（上位 30 項目）		Mean	SD
1.	うまく他教師の意見を得る	2.87	0.33
2.	職務に自分の意見をもつ	2.85	0.36
3.	校長，教頭との連絡を密にする	2.85	0.36
4.	仕事を誠実に行う	2.85	0.36
5.	他の教諭も保健指導ができるように資料を提供する	2.85	0.36
6.	職務を理解してもらえらる保健室経営をする	2.82	0.38
7.	児童生徒の状態を担当に連絡する	2.82	0.38
8.	担任から情報収集を行う	2.82	0.44
9.	性教育について相談にのったり資料を提供する	2.82	0.38
10.	担任との連携をする	2.82	0.38
11.	自分の考えをもち行動する	2.82	0.38
12.	他の先生から信頼される	2.82	0.38
13.	教員間の和を大切にす	2.80	0.40
14.	孤立しないようにする	2.80	0.40
15.	人からの意見を聞き，自分の視野を広げる	2.80	0.40
16.	職員との人間関係を良くする	2.80	0.40
17.	他職員の職務を理解する	2.80	0.40
18.	職員との情報交換をする	2.80	0.40
19.	失敗してもくよくよしない	2.80	0.46
20.	人の意見を生かす事ができる	2.80	0.40
21.	職員も気楽に相談できる	2.77	0.42
22.	自分から挨拶する	2.77	0.47
23.	学習に適した環境条件の問題提起や助言をする	2.77	0.42
24.	穏やかである	2.77	0.42
25.	すべての職員と協力関係をつくる	2.77	0.42
26.	研修などに積極的に参加する	2.75	0.43
27.	健康問題について積極的に意見を主張する	2.75	0.43
28.	悩みをもつ職員にあたたく接する	2.75	0.43
29.	他職員に何かを依頼するときは丁寧に頼む	2.72	0.45
30.	同僚のことを悪く言わない	2.72	0.45
養護教諭の行動（下位 10 項目）		Mean	SD
114.	控えめにする	2.00	0.77
115.	自分の相談事は年齢の近い先生にする	2.00	0.74
116.	保健室に保健主事の机を置きいつでも来られるようにする	2.00	0.81
117.	養護教諭の力で学校全体を動かす	1.95	0.89
118.	腰が低い	1.85	0.85
119.	職員会計係をする	1.82	0.80
120.	お茶セットを準備している	1.65	0.73
121.	事務室でお茶を飲む	1.65	0.69
122.	朝から女教師と一緒に全職員のお茶を入れる	1.60	0.73
123.	時間が空いている先生が保健室に来室するとお茶を入れる	1.60	0.70

Table 2 養護教諭の対児童・生徒行動の重要度

n=299

養護教諭の行動（上位 30 項目）		Mean	SD
1.	児童・生徒の一人一人を大切にす	2.97	0.16
2.	どんなことでも一度受け止める	2.97	0.22
3.	生徒とコミュニケーションをとる	2.97	0.26
4.	あたたかい態度で接する	2.92	0.26
5.	男女平等に扱う	2.92	0.26
6.	児童生徒を信じる	2.90	0.30
7.	生徒との約束を守る	2.90	0.30
8.	生徒の反応を大切にす	2.90	0.30
9.	優しさをもっている	2.90	0.30
10.	処置が事務的におわらない	2.87	0.33
11.	話しかけやすい雰囲気である	2.87	0.33
12.	適切な処置が迅速にできる	2.87	0.33
13.	話をよく聞く	2.87	0.33
14.	教師として自覚をもって児童生徒に接する	2.87	0.33
15.	授業で教えるだけでなく日常生活の中で指導する	2.87	0.33
16.	児童生徒が即、実践出来る保健指導をする	2.87	0.33
17.	児童生徒を傷つけないような言動をする	2.87	0.33
18.	児童生徒に考えさせる対応をする	2.87	0.33
19.	児童生徒の長所に注目する	2.85	0.36
20.	児童生徒のプライバシーを守る	2.85	0.36
21.	日常生活に即した保健指導をする	2.85	0.36
22.	心の問題に目を向ける	2.85	0.36
23.	児童生徒の保健委員活動を育成する	2.85	0.36
24.	児童生徒の発達段階に合わせる保健指導する	2.85	0.36
25.	保健室での児童生徒の良い所を職員に伝える	2.85	0.36
26.	児童生徒の行動、外見にとらわれず中身を見て行く	2.85	0.36
27.	児童生徒にとって一番良いことは何かを考える	2.85	0.36
28.	興味のわく保健だよりをつくる	2.85	0.36
29.	児童生徒の名前と顔を覚える	2.85	0.36
30.	先入観をもたないで児童生徒に接する	2.85	0.36
養護教諭の行動（下位 11 項目）		Mean	SD
289.	教室に入りにくい児童生徒には教室まで付き添う	2.17	0.63
290.	白衣を着ない	2.17	0.74
291.	クラブ活動の顧問を担当し、児童・生徒と多く接する	2.15	0.82
292.	細かいことまで言い過ぎない	2.15	0.53
293.	不登校の児童生徒の家へ家庭訪問をする	2.05	0.63
294.	児童・生徒の目を考え、保健室内でお茶、コーヒーをいれない	2.00	0.71
295.	1 年会わなくても名前を覚えておく	1.97	0.79
296.	学期に 1 回は、クラスにはいって子供と生活する	1.97	0.57
297.	礼儀、しつけの指導をする	1.97	0.69
298.	児童・生徒と話す時は友達言葉で話す	1.67	0.75
299.	不登校気味の児童生徒へ毎日、心のこもった手紙を書く	1.52	0.71

なく日常生活の中で指導する(2.87)」「16. 児童生徒が即、実践できる保健指導をする(2.87)」「21. 日常生活に即した保健指導をする(2.85)」「23. 児童生徒の保健委員会を育成する(2.85)」「24. 児童生徒の発達段階に併せて保健指導をする(2.85)」「28. 興味のわく保健だよりをつくる(2.85)」などであり、近年ますます重要視される「22. 心の問題に目を向ける(2.85)」もある。「1. 児童・生徒の一人一人を大切にする (2.97)」「2. どんなことでも一度受け止める(2.97)」「3. 生徒とコミュニケーションをとる(2.97)」の上位3位は、養護教諭のテクニカル・スキルでもあり、ヒューマン・スキルともいえるものである。「8. 児童・生徒の反応を大切にする(2.90)」「10. 処置が事務的に終わらない (2.87)」「13. 話をよく聞く(2.87)」「18. 児童・生徒に考えさせる対応をする(2.87)」も同様である。養護教諭のテクニカル・スキルの中心である個別指導は、視点を変えればそのままヒューマン・スキルともいえる。また「5. 男女平等に扱う(2.92)」「6. 児童・生徒を信じる(2.90)」「7. 生徒との約束を守る(2.90)」は、特に児童生徒側から敏感に察知されるヒューマン・スキルである。「19. 児童・生徒の長所に注目する (2.85)」「20. 児童生徒のプライバシーを守る(2.85)」も同じである。さらに「4. あたたかい態度で接する(2.92)」「9. 優しさをもっている(2.90)」「11. 話しかけやすい雰囲気である(2.87)」「17. 児童生徒を傷つけない言動をする(2.87)」なども児童・生徒への個別対応に欠かせない態度であろう。「25. 保健室での児童生徒の良いところを職員に伝える(2.85)」「26. 児童・生徒の行動や外見にとらわれず中身を見ていく (2.85)」「30. 先入観をもたないで児童・生徒に接する(2.85)」など養護教諭の重要なヒューマン・スキルである。このほかに「29. 児童・生徒の名前と顔を覚える(2.85)」があるが、これは、児童・生徒へ教育力を発揮するテクニカル・スキルとヒューマン・スキルの基礎であり、児童・生徒との人間関係づくりにあたって欠かせない項目である。

最下位の項目には「299. 不登校気味の児童・生徒へ毎日、心のこもった手紙を書く (1.52)」がある。不登校児童・生徒に対してさまざまな養護教諭の行動があるが、毎日、手紙を書く行動は多い例ではなく注目されていない。不登校児童・生徒の対応は他にも「293. 不登校の児童・生徒の家へ家庭訪問をする(2.05)」「289. 教室に入りにくい児童・生徒には教室まで付き添う(2.17)」があるが、他の全体児童・生徒への対応項目より注目度は低い。児童・生徒への対応に「297. 礼儀、しつけを指導する(1.97)」「298. 児童・生徒と話す時は友達言葉で話す (1.67)」「295. 1年、会わなくても名前を覚えておく(1.97)」「294. 児童・生徒の目を考え、保健室内でお茶、コーヒーをいれない(2.00)」「292. 細かいことまで言い過ぎない(2.15)」があり、養護教諭の配慮事項ではあるが、養護教諭の全体行動の上からは重要視されていない。小学校低学年児童に医療関係者とされて不安を与えない配慮からの「290. 白衣を着ない(2.17)」も低得点である。「296. 学期に1回は、クラスにはいって子供と生活する(1.97)」は實際上、できない行動でもあり得点は低い。また「291. クラブ活動の顧問を担当し、児童・生徒と多く接する (2.15)」はクラブの顧問をすることを、養護教諭の活動からみて重視していない。

3. 養護教諭の対教師、対児童・生徒双方にかかわる行動

対教師、対児童・生徒双方にかかわる行動に関する結果を Table 3 に示す。250項目、平均得点は2.69である。

このカテゴリーの中で、テクニカル・スキルと思われるものは「5. 学校医・学校歯科医・学校薬剤師と連携をはかる」(2.87)」「7. 薬品や消毒について正確な知識をもって管理する(2.87)」「10. 保健室の経営方針をもっている(2.85)」「16. 何時でも誰でも訪室しやすい保健室にする(2.85)」「17. 読む対象にあった保健だよりを作成する(2.85)」「26. あらゆる場面を指導の場との

Table 3 養護教諭の教師、児童・生徒双方にかかわる行動の重要度

n=250

養護教諭の行動（上位 30 項目）		Mean	SD
1.	あたたかい人間関係をもつ	2.97	0.16
2.	探求心をもち向上する努力をする	2.90	0.30
3.	保健室で休養させる児童生徒に対しては所在を明らかにする	2.90	0.30
4.	相手に合わせた対処をする	2.87	0.33
5.	学校三師と連携をはかる	2.87	0.33
6.	自分の仕事に誇りをもつ	2.87	0.33
7.	薬品や消毒について正確な知識をもって管理する	2.87	0.33
8.	豊かな人間性をもつ	2.87	0.33
9.	空き時間を利用し勉強する	2.87	0.33
10.	保健室の経営方針をもっている	2.85	0.40
11.	個人を尊重する	2.85	0.36
12.	自分の感性を磨く	2.85	0.36
13.	偏った考え方をもたない	2.85	0.36
14.	心身とも健康である	2.85	0.36
15.	自分の意見をしっかりと言える	2.85	0.36
16.	何時でも誰でも訪室しやすい保健室にする	2.85	0.36
17.	読む対象にあった保健だよりを作成する	2.85	0.36
18.	勤務時間を守る	2.85	0.36
19.	自分の精神面をコントロールする	2.82	0.38
20.	思いやりがある	2.82	0.38
21.	個人を把握している	2.82	0.38
22.	誠実な行動をする	2.82	0.38
23.	自己を成長させる努力をする	2.82	0.38
24.	聞き上手になる	2.82	0.38
25.	自らの仕事に自信をもつ	2.82	0.38
26.	あらゆる場面を指導の場との心構えをもつ	2.82	0.38
27.	常に計画・実践・評価・フィードバックを心掛ける	2.82	0.38
28.	保護者にも処置法など指導する	2.82	0.38
29.	救急処置時的確な連絡がとれる	2.82	0.44
30.	専門職の意識をもつ	2.82	0.44
養護教諭の行動（下位 10 項目）		Mean	SD
241.	養護関係専門誌を月々購入する	2.45	0.59
242.	トイレの衛生に力を入れる	2.45	0.59
243.	おしゃれな服より活動しやすい服を着る	2.40	0.66
244.	トイレトペーパー、石鹸の管理をする	2.32	0.61
245.	自分の意見はあまり言わず聞き役になる	2.22	0.69
246.	リサイクル活動をする	2.22	0.61
247.	PTA 保健活動を支援する	2.20	0.71
248.	担任と一緒に家庭訪問する	2.00	0.55
249.	保健室がたまり場にならないよう児童生徒を教室に返す	1.95	0.71
250.	部活を担当する	1.70	0.68

心構えをもつ(2.82)」「27. 常に計画・実践・評価・フィードバックを心掛ける (2.82)」「28. 保護者にも処置法など指導する(2.82)」「29. 救急処置時、的確な連絡がとれる(2.82)」がある。しかし、他を引き離して最も得点が高かったのが「1. あたたかい人間関係をもつ(2.97)」である。教師、児童・生徒の双方に「あたたかい存在」でなければならないという認識は強く、これらは、ヒューマン・スキルの要素が濃い。「4. 相手に合わせた対処をする(2.87)」「11. 個人を尊重する(2.85)」「15. 自分の意見をしっかりと言える(2.85)」「21. 個人を把握している(2.82)」も同様である。ヒューマン・スキルの要素が明らかな項目には「13. 偏った考え方をもたない (2.85)」「20. 思いやりがある(2.82)」「24. 聞き上手になる(2.82)」などもある。また「2. 探求心をもち、向上する努力をする (2.90)」「9. 空き時間を利用して勉強する(2.87)」「12. 自分の感性を磨く(2.85)」「19. 自分の精神面をコントロールする(2.82)」「23. 自己を成長させる努力をする(2.82)」などがあり、テクニカル・スキルとヒューマン・スキルの双方の向上を目指す項目が高い得点で選ばれている。

次に「6. 自分の仕事に誇りをもつ(2.87)」「8. 豊かな人間性をもつ(2.87)」「14. 心身ともに健康である(2.85)」「18. 勤務時間を守る(2.85)」「22. 誠実な行動をする (2.82)」「25. 自らの仕事に自信をもつ(2.82)」「30. 専門職の意識をもつ(2.82)」があげられ、いずれも養護教諭の日常活動の基礎部分についてもそれなりの評価をしていることがわかる。

このカテゴリーの中で、最も得点が低かったのが「250. 部活を担当する (1.70)」である。前述した Table 2 の養護教諭の対児童・生徒行動の中に「291. クラブ活動の顧問を担当し、児童・生徒と多く接する」も注目度は低かったが、部活を担当することも養護教諭の職務全体から見て重要ではないと考えたと思われる。「248. 担任と一緒に家庭訪問をする(2.00)」「247. P T A活動を支援する(2.20)」といった養護教諭の日常的行動ではないもの、普遍的な活動でないものは得点が低い。

「241. 養護関係専門誌を月々購入する (2.45)」「249. 保健室がたまり場にならないよう児童・生徒を教室に返す (1.95)」「243. おしゃれな服より活動的な服を着る(2.40)」「246. リサイクル活動をする(2.22)」など、特定の養護教諭の行動と考えられる項目は得点が低い。「244. トイレットペーパー、石鹸の管理をする(2.32)」「242. トイレの衛生に力を入れる(2.45)」などは、それほど高く評価されていない。

要 約

学生の知識や実習での経験に基づいた役割・行動・態度の項目を可能な限り収集することを試みた。これらを「対教師行動」「対児童・生徒行動」「教師、児童・生徒双方にかかわる行動」に分類し、それぞれについて考察を行った。

対教師行動は、上位 11 位まで「1. うまく他教師の意見を得る」「2. 職務に自分の意見をもつ」に代表されるテクニカル・スキルにかかわる行動が多く、12 位からヒューマン・スキルの要素をもつ項目が多く見られた。しかし「1. うまく他教師の意見を得る」のようにテクニカル・スキルの中にヒューマン・スキルの要素が多分に含まれるものも少なくない。

対児童・生徒行動は「1. 児童・生徒の一人一人を大切に使う」「2. どんなことでも一度受け止める」など、ヒューマン・スキルの要素をもつ項目が多い。これは、個別対応が養護教諭の日常活動の中心であることを示唆している。

教師，児童・生徒双方にかかわる行動は，代表的なものとして「1. あたたかい人間関係をもつ」があげられるが，これは，ヒューマン・スキルといえるものであろう。

また「12. 自分の感性を磨く」など，ここにはテクニカル・スキルとヒューマン・スキル双方の向上を志向した項目が多く選ばれているのも特徴的である。

参 考 文 献

- 松本敬子 1987 養護教諭の現代機能に対応する養成の課題，学校保健学会誌 29 (2), 53-61.
松本敬子 1987 養護教諭の現代機能に対応する養成の課題，学校保健学会誌 29 (7), 303-308.
松本敬子 1988 新しい養護教諭像と現状との関連，学校保健学会講演集 Vol 30, 215.
松本敬子 1991 連携，小倉学，堀内久美子編「これからの養護教諭の教育」, 78-81, 東山書房.
松本敬子 1992 学校保健活動の活性化と継続性－組織的活動において－，学校保健学会誌 34, (2), 61-67.
松本敬子 1992 養護教諭養成における学校保健活動の視点，学校保健学会誌 34, (3), 114-120.
松本敬子, 吉田道雄 1993 養護教諭実習生リーダーシップに関する実証的研究，熊本大学教育学部紀要 人文科学 42, 199-208.